

みどりのワンポイント

水やりについて「たっぷりってどれくらい？」

植物を植木鉢やプランターで育てていると、水やりは欠かせないものです。表土が乾いてきたら水やりのタイミング。与える水の量は「たっぷりと」と言いますが、たっぷりってどれくらいでしょう。

土はその体積の2～3割の水を保持するそうです。たとえば、直径が15cmほどの植木鉢の土の容量は1ℓくらいですから、少なくともコップ1杯くらい（約0.2ℓ）の水を与えることになります。たっぷりとは、土の量で決まりその2割ほどです。

そこで植物を植える時、土は鉢の高さの8割程までにします。上部2割はウォータースペースとして空けておきます。そうすると水やりの時、与える水の量の参考になります。

たっぷりとは、ウォータースペースに水が溜まるくらいです。乾湿の変化が激しい鉢土は、水の通り道が出来やすいものです。与えた水が鉢底からすぐに出てしまい、全体に水が行き渡らなくなります。そうした時は、鉢ごとどっぴりと水に浸して、水みちの解消を図ると生育が良くなります。

（みどりの相談員 鈴木 宣夫氏）

